

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立南風原高等学校
沖縄県立南風原高等支援学校
校長 嘉数 修
(公印省略)

令和7年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和7年12月5日付け教県第1750号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和7年7月10日	場所	南風原高等学校 視聴覚室	出席 状況	4名
第2回	日時	令和7年11月20日	場所	南風原高等学校 視聴覚室	出席 状況	4名
第3回	日時	令和8年2月25日	場所	南風原高等学校 視聴覚室	出席 状況	4名

2 学校評議員に求めた事項

1. 学校経営方針および教育活動への助言と提言
2. 南風原高等学校創立50周年記念事業への参画と協力
3. 進路支援における地域・企業としての協力
4. 生徒指導と地域での育成への協力
5. 学校評価への参加

3 学校評議員の意見

1. 生徒指導とコミュニケーションのあり方
生徒の行動改善に向けた指導方法や、教員と生徒の信頼関係構築について多くの意見が出された。
2. 進路支援と地域・企業との連携
地元の産業界や卒業生との連携を強化し、生徒の社会性を育むことへの期待が語られた。
3. 情報リテラシーとICT活用
YouTube等のSNSで情報が切り取られて拡散される現状に触れ、「情報が正しいかどうかを判断する力(ファクトチェック)」を生徒に教える必要があると指摘された。デジタルデトックスの取組をやってみたいという意見もいただいた。
4. 学校環境と生徒の変容への対応
[中途退学と通信制への移行] 前日制の枠組みに馴染めず、通信制高校へ転出する生徒が増えている現状に対し、単なる数字の把握だけでなく、転出した後の生徒がどうなったかという追跡調査の必要性が提案された。
5. 50周年記念事業と今後の展望
6. 学校の魅力をマスコミ等を通して地域にPRする取組を強化したほうが良い。南風原の持つポテンシャルは高い。

4 学校運営に反映した事項

1. 進路支援の充実と地域連携の強化
評議員から提案された「実体験に基づく学び」の重要性を受け、以下の取組を推進している。
2. 若手卒業生による講話の実施
「教職員よりも年齢の近い先輩の言葉が響く」という助言を反映し、看護職や民間企業で活躍する卒業生を招いた職業講話などを通じて、生徒の勤労観や職業観を養った。
3. 地元企業での就業体験(インターンシップ)
深刻な人手不足にあるホテル業界などの地元の事業所と連携し、生徒が社会の厳しさとやりがいの両面を学べる実習の場を確保・拡大している。

5 課題その他

1. 生徒指導と行動面での課題
2. コミュニケーション能力と社会的スキルの不足
3. 特別活動(部活動・生徒会)の活性化
4. 情報リテラシーとデジタル環境の功罪